

# 『マニフェスト白書 2005』の要点

PHP マニフェスト検証委員会[編]

PHP 総合研究所発行

[目的] マニフェストの質がさらに高まることを願い、また有権者の政治参加に一つの判断材料を提供することを目指し、各党マニフェストの内容と達成度について分析と評価を継続的に行い、定期的に公表する。

## [概要]

### 1. マニフェストをいかに評価するか(分析・評価方法の説明)

- (1) 各政党で異なるマニフェスト(2003年衆議院選挙、2004年参議院選挙)の分類を比較しやすいように再分類をした。
- (2) 「マニフェストの要件を備えているかを評価する(検証1)」「マニフェストの達成度を評価する(検証2)」の二段階の評価を行う。
- (3) 検証1では、各個別政策を以下の項目で評価し25点満点で評価。さらに、各政策分野については、個別政策の平均点に分野全体としての整合性・包括性の評価を掛け合わせ100点満点で評価。

what : 政策として何を行うかが書いてあるか  
why : その政策を行う理由や背景が書いてあるか  
when : その政策の実現に向けて具体的な期限を設定しているか  
how : 政策実現へのプロセスや方法を示しているか  
appeal : 有権者の関心を引き付けるものであるか

- (4) 検証2では、与党マニフェストにおける各個別政策の進捗度と難易度をはかり、それらを掛け合わせたものを達成度として25点満点で評価。各政策分野の達成度は、個別政策の達成度の平均点から100点満点で評価。

### 2. 検証1 = マニフェストの要件を備えているかを評価する

#### (1) 政策分野の総合評価(100点満点)

	自民	公明	民主	共産	社民
政治	26	21	42	28	28
行財政	47	36	51	26	27
経済	41	32	44	16	21
生活	44	43	50	28	20
教育	21	31	22	22	19
環境	16	37	44	30	44
外交・安保	44	16	44	21	19

#### (2) 政策分野評価における特徴

- ・自民は、民主に次ぐ高い評価。「行財政」「外交・安保」「生活」で高い評価を得るも「環境」はもっとも低い評価。
- ・公明は、「教育」で相対的に高い評価。「外交・安保」は最低。全体的には民主、自民に次ぐが、自民の補完的役割。
- ・民主は、全般的に高い評価だが、「教育」は低迷。
- ・共産・社民は全般的に低迷。ただし、社民が「環境」で民主と並び、もっとも高い評価。
- ・各党政策分野ごとに評価の散らばり（得意・不得意）があるが、「教育」は全般的に低い評価。
- ・評価の差は、整合性・包括性の得点の差に大きく影響を受けている。
- ・政党間の得意分野・不得意分野の違いは、政策立案能力の違い、支援団体等との政策的妥協、与党・野党という立場の違い、政権との距離、などが背景か？

### （３）個別政策ごとの評価

- ・ベスト５０の過半数が民主。自民１０、公明１１、共産、社民はベスト５０入りならず。
- ・ベスト１００のほぼ半数が民主。自民２５、公明２５、共産、社民は各１。
- ・ワースト５０、ワースト１００ともに、その８０％が社民。民主はなし。

## ３．検証２＝マニフェストの達成度を評価する

### （１）個別政策の達成度の評価

- ・一般的に、自民のほうが難易度の高い政策に取り組んでいる。
- ・自民も公明も個別政策の進捗度は「検討」の段階は終わり、「実施」の段階へ。  
（自民は全体の６３．６％、公明は全体の６２．６％）

### （２）政策分野別の達成度（１００点満点）

	自民	公明
政治	２１	２４
行財政	３４	２７
経済	２７	２４
生活	３１	２４
教育	２６	３４
環境	２０	２２
外交・安保	３７	１８

### （３）政策分野別の達成度の特徴

- ・全般的に見て、自民のほうが達成度が高い。
- ・個別に見た場合、自民は特に「外交・安保」「行財政」の分野での達成度が高い。また、「教育」の分野においては、公明の達成度のほうが相対的に高く、この分野においては、公明が自民の補完的な役割を果たしていると考えられる。
- ・自民の「経済」分野の評価は低いが、個別政策では金融関係が高い評価。

以上